なたとどこでもアート実行委員会が主催するこの事業は、埼玉県内 の5つの公立ミュージアム*の連携を基盤に、文化庁の助成を得て、 さまざまなアートの分野で活動している方々が集うSMF(Saitama Muse Forum)とともに、地域と共働したさまざまなアートプログラムやアウトリー チ活動を展開するものです。

平成26年度の「小さな家プロジェクト」、27年度の「着がわりプロジェクト」に 続き、28年度は「おかわりプロジェクト」と題し、「食」をテーマとする多彩なアート プログラムを連携する5つのミュージアムを中心に県内各地で開催します。

例年ご好評をいただいている各ミュージアムのユニークで魅力的なワーク ショップやアート散歩、イベント。今年もお見逃しなく、ぜひご来場ください。(プロ ジェクトM)

館外を主体に展開する事業(プロジェクトO)では、千の風車で樹木に風の花 を咲かせる「花咲かアートさん」、創作ダンス「草上の昼餐」や「回遊美術館II」を

含め、埼玉県立近代美術館や北浦和公園、近隣商店街を舞台に展開する「北 **浦和おかわり芸術祭** 1(9/24~11/27) が今年のメインプログラムとなります。

またさいたまトリエンナーレにあわせて市民会館おおみや内に開校予定の 「SMF学校」を基点に、氷川の杜や大宮の周辺市街に展開する「OMIYAプ ロジェクト」や、豊かな農の営みに寄り添いながら見沼田んぼでの展開を図る 「TANBOプロジェクト」が、もう一つの核となります。どちらもさいたまトリエン ナーレとの相乗効果が期待されます。

「宝船展Ⅱ」の開催や「アート寺子屋・アーカイブ」の設置などを通じて、昨春 ネット上に誕生した「アート長屋」のプラットフォーム機能を整備・拡張していきます。

今年も盛りだくさんの「あなたとどこでもアート/おかわりプロジェクト」、 どうぞお楽しみに。みなさまのご参加、ご来場をお待ちしています。

*入間市博物館ALIT、うらわ美術館、川口市立アートギャラリーATLIA、川越市立美術館、 埼玉県立近代美術館

プロジェクトMの「中の人」になったことと、そのテンマツ。

埼玉県内の5つの公立美術館/博物館が連携して、また内外の アーティストや大学、市民を巻き込んでのプロジェクトである「あなたとど こでもアート」。衣食住をテーマに3カ年掛けて取り組んでいる、というこ とは、かつての職場ということもあり外から見て知っていました。衣食住 を取り上げるのに、住→衣→食の順番で取りかかるなんてことも含めて 「きっとこれもアートなんだなあ」と漠然と思っていたものです。それがまさ か、その仕上げの3年目に自分が「中の人」として舞い戻って仕掛けて 行くことになろうとは!

しかしそこは「お茶の博物館」の別名を持つアリット。食がテーマの今 年こそ、展示室から飛び出すのは当たり前。反対に展示室の中に入り 込んでのお茶事業も含めて展開して行きます。

まず初めは、様々なお茶を「聴いて」味わっていただきます。

「聴いて味わう 時空を超えるお茶の旅」 8月7日(日)、12月4日(日)、1月8日(日)

様々な地方のお茶を味わいながら、当館所蔵 の国産第一号蓄音機で、お茶にちなんだ曲や、

飲んでいる茶産地の民 謡などのSP盤レコード をお聴きいただきます。 100年前の音色※に浸 るもよし、各地の個性溢



れるお茶に舌鼓を打つもよし、です。

※当日お聴かせするレコードの製造はもっと新しい場合があります。

喫茶風景や茶摘み、製茶などの様子を描いた浮世絵約15点を常設



「お茶の浮世絵特別公開」 10月26日(水)~11月23日 (水・祝)

皆さんが普段思い浮かべる様 子とはガラッと趣きの違う江戸~明 治期の茶摘みや、当時お茶を海外へ輸出していた様子が描かれた浮 世絵、また当時の美人画の背景に描かれた茶道具など、「観て」お茶を 楽しんでいただこうと思います。

そして、茶からインスピレーションは広がります。

「アートお茶の間談義」11月12日(土)

館内休憩コーナーにあるユニット式の「方丈庵」を拡張し、チャの木・ 花をモチーフにした生け花作品の展示やチャ染めの糸などを使って演 出する「お茶の間」を作ります。茶の間に腰を下ろし「食」や「茶」「環境」 をテーマとしたシンポジウム「お茶の間談義」に花を咲かせましょう。

「五感で味わうわび茶の空間」11月20日(日)

常設展示室「茶の世界」内に再現された千利休の幻の茶室に、はじ めて参加者を招き入れ、茶の精神を体現する空間で抹茶を味わってい

ただきます。



そうです!開館以来幾度も要望 があったものの実施せずに来た、展 示室内での抹茶体験です。利休の 想いを私たちも感じることが出来る でしょうか。

そして最後は、

「てんからまつへ~茶臼で挽くお茶のテンマツを楽しむ~」 11月23日(水·祝)

展示室でレクチャーを受けた後、茶室「青丘庵」に移り、「てん茶」を

茶臼で「抹茶」に挽き、挽きたての 「抹茶」を自分で点てて味わいます。

こちらも五感をフルに使って茶に 向き合える事業になります。文字通り 「お茶を挽く」訳ですが、暇を持て余

すことは無いはずです(笑) このような事業で皆様 をお待ちしております。

(K.T)



ラマダン・ファヌースを作ってみよう!

今回のプロジェクトの一環として、川越市立美術館でエジプト人陶芸家によるワークショップを開催します。今年度の「食」をテーマに食卓を飾るオーナメントを作り、エジプトの食や文化・芸術を楽しんでもらいます。

エジプトはピラミッドやファラオなどの 古代エジプトの印象が強いですが、 現代のエジプトは14世紀からイスラム 文化を中心としたアラブ文化が生活 に根付いています。



その中でも「ラマダン」(断食月)は、年に一度の1か月続く行事として、エジプト人にとっては最大の楽しみの一つです。断食月は夜明けから日没まで飲み物や食べ物を一切口にしてはいけませんが、日没後食事をすることができます。アラビア語でイフタール(朝食)と言って、その際は親戚や友人宅に呼んだり呼ばれたり、日本のお正月のような感覚でお祭り気分を楽しみます。

街の中は短冊のような飾りや、アラベスク文様の布が 飾られ、にぎやかになります。その装飾の一つに金属とス テンドグラスでできたファヌースという提灯を飾ります。ファヌースの明かりのも と、人々は食事をし、お茶を飲み、会話をします。

今回のワークショップでは粘土のファヌースに、穴をあけたり、絵を描いたり、色を塗ってもらってオリジナルのファヌースを作り、講師と一緒にロクロで好きな形のお皿を制作します。エジプトからの数名のゲストから、一緒に制作をしながら、普段ではなかなか聞けないエジプトのお話も聞けます。

エジプトの食と文化展&講演・交流会

またファヌースの展<mark>示会と</mark>交<mark>流</mark>会では、エジプト料理やアラブ音楽研究家

の木村伸子さんのアラブバイオリンの演奏、作品の講評と映像を交えたエジプトの文化や庶民の生活、アートについてお話をしながら楽しいひと時を過ごします。 (M.T)



電子音響ピープルプロジェクト

2016@SAITAMA ワークショップ

電子音響ピープルプロジェクトは、2010年からSMFで実施してきた「MOMASサウンドモンタージュワークショップ」を下地にして2015年から新たに始まった企画です。電子音響音楽は多くの人にとって永らく「難解」な音楽とされてきました。しかし、ワークショップで多くの人々と実際に電子音響音楽を作るプロセスを通して、私達は電子音響音楽が実際には多くの人々が楽しめることができる音楽であることを実感してきました。

実際にワークショップの限られた時間内で仕上げられるのは、10秒から20 秒程度のサウンドトラックになってしまいます。そこで、電子音響ピープルでは、 ベテランのアーティストに講師を依頼し、そのベテランアーティストが参加者全 員の完成品や録音した素材を用いて、共同制作作品を仕上げてもらいます。

単にこの作品を仕上げることが ゴールなのではなく、ライブでの 上演や、さらにCD制作とその販 売、売上げの分配という一連の プロセス全体を一つのプロジェク ト型の作品として完成させること をゴールとしています。



▲参加者に作り方をアドバイスするベテランピープルの由雄正恒さん

今日「音楽を買って聴く」という聴き方が一般的になってきていますが、「自分 でやってみて楽しむ というほうが自然な音楽との関わり方であると考えていま す。ただ、音楽を「作る」となると専門的な知識や技術が必要になってしまいま す。電子音響音楽は、もの音を録音してその音を素材としてコンピュータで加 工・モンタージュして音楽を作っていきます。絵を描いていくように、直に音を聴 きながら音楽を構成していくことができます。この制作手法を少しでも多くの 人々と共有していくことで、買ってきて聴くのではなく、自分の音楽を自分で作る という、誰もが音楽の作り手になり得る状況を創生することができます。しかも、 作る音楽はリズムやメロディといった一般的な音楽とはことなった音楽ですか ら、その音楽を作ることを楽しむということは、多くの人々にとっての「音楽」につ いての概念を揺さぶり拡張することともいえます。さらに、作り上げた音楽は、リ ズミカルにシンクロを促して人々の社会的な結束を強めるような音楽でもなく、 立派な作曲家が作った音楽でも、あるいは有名なアーティストが作った音楽で もありません。そうした、少数の音楽家が作った音楽を多数の聴き手が受け取 るのではなく、多様な人々が作った多様な音楽を、多様な人々が愉しみ合うよ うなフィールドの創生を電子音響ピープルは目指しています。 (TS)

連携美術館情報

入間市博物館ALIT

「入間市の近代化遺産「旧石川組製糸西洋館」「旧 黒須銀行」特別公開!」

6/18,7/16,9/17,11/6

入間市を代表する近代化遺産である二つの建物を 期日限定で公開します。旧黒須銀行では「連鶴の折り 紙作品」ミニ展示と折り紙教室も開催!西洋館は本館 1階を公開しますが11月6日に2階も特別公開します。

うらわ美術館

「BIB 50周年 ブラティスラヴァ世界絵本原画展

―絵本の50年 これまでとこれから―」 7/9~8/31

創設50周年の節目を迎えた世界最大規模の絵本原画展「ブラティスラヴァ世界絵本原画展 (通称BIB)」。歴代参加作品の中から「戦後日本の絵本の歴史50年」を振り返り、BIBがその発展に果たした役割を検証します。加えて、昨年開催された「BIB 2015」の受賞作品をご紹介します。

川口市立アートギャラリーATLIA

「第5回 新鋭作家展 型にハマってるワタシたち」 7/16~8/31

型をつくることにハマってしまったアーティストとたくさんの人たちが一緒に制作をする

夏のアートなプロジェクト!日頃から何かと型にハマっていることで安心しつつ少しそこからはみ出してみたい、そういうワタシたちの日常にちょっと似てはいませんか?窮屈な日々も隠せない差異も全部浮き彫りになるアートな体験。アナタもハマってしまうかも!

川越市立美術館

「川島清 彫刻の黙示 路傍・淵・水量」 7/23~9/11

日本を代表する彫刻家の一人として活躍している川島清。木、鉄、鉛などの素材を用い、火、水、土、空気の四元素を根底とする身体を通した独自の思考を掘り下げて制作しています。本展は大規模な作品である《水量》、《路傍ノート》シリーズを中心に、新作を含めた20余点の作品群で構成します。

埼玉県立近代美術館

「竹岡雄二 台座から空間へ」 7/9~9/4

作品を「見せること」を探って制作しているドイツ在住の美術家、竹岡雄二。ドイツでの約30年間の活動を20点あまりの代表作で振り返ります。また同時開催として、遠山記念館でも展示を行い、竹岡が独自のコンセプトで選んだ遠山記念館所蔵の伝統的な美術品を埼玉県立近代美術館に展示します。 (A.O)





SMFは身近な場所でアートを享受し支援し

再創造するプラットフォームをめざしています。